

ものゝ中にもこの名の見ゆるものあり、本篇末に附したる補遺(三)参照。

⑨ 勅勒、特勒が鐵勒と同音異字なることは上引、新舊唐書回鶻傳にも見ゆる所にして、もとよりまた Türk の對音なり。

⑩ Marguart も一九一四年發刊の Osttürkische Dialectstudien, S. 71-72 の註に於て、突厥は Türk の複數形なる Türküt を寫したるものにして、その單數の形の初めて記されたるものと見るべきは、隋書突厥傳に見ゆる訥都陸の都陸ならんと言へり。ペリオと何れが先なるかは判然定め難きも、少くとも論文出版の年次によれば Marguart 氏を以て前とせざるべからず。

補遺 (一)

一

舊唐書(卷八十三)薛仁貴傳に見ゆる九姓突厥なる名が、實は九姓鐵勒を誤りたるものなるべきこと本論第三三五頁以下第三三七頁に於て論證したるが如し、然るに舊唐書地理志(卷三十八)には靈州大都督府下に屬せる州縣を擧げ、貞觀「二十年鐵勒歸附、於州界置臯蘭・高麗・祁連三州、並屬靈州都督府、永徽二年廢臯蘭等三州、調露元年又置魯・麗・塞・含・依・契等六州、總爲六胡州、開元初廢、復置東臯蘭・燕然・燕山・鷄田・鷄鹿・燭龍等六州、並寄靈州界、屬靈州都督府」と記し、而して此等の六州に就きては、「燕然州、寄在廻樂縣界、突厥九姓部落所處、戸一百九十、口九百七十八。鷄鹿州、寄在廻樂縣界、突厥九姓部落所處、戸一百三十二、口五百五十六。鷄田州、寄在廻樂縣界、突厥九姓部落所處、戸一百四、口四百六十九。東臯蘭州、寄在鳴沙界、九姓所處、戸一千三